

津波・地震の防災、減災計画と国の海岸浸食対策を追及

豊かな自然景観を守り、安心・安全なまちづくりをもとめます！

東日本大震災は、我々の郷土にも教訓を伝えています。美保湾の津波は、4mと予想されています。津波が押し寄せた海岸は、浸食破壊が起こります。県、市の防災計画に、津波を予想した海岸浸食の防災対策が計画されていません。減災の護岸堤事業が急務です。

美保湾岸の三柳、浜河崎・富益地区は、浸食が進行しています。



1990/7/10 (平成 2 年)

三柳地区
(加茂新川河口)

白砂青松の情景は、一夜の嵐で一変。保安林まで、海に流された。



1992/3/22 (平成 4 年)

平成 6～10 年に、護岸堤。浸食を減災。



2001/11 (平成 13 年)

三柳、浜河崎地区の浸食

浸食対策は、自然と海岸汀線を守ることだ。

この地区は、二年間サンドリサイクル事業(砂流し)が行われ、国費四千万円が海の藻屑となった。



2004/5 (平成 16 年)

海岸汀線の後退が激しい両三柳工区は、背後地に住宅団地が密集している。離岸堤の着工が急務だ。



2012/12 (平成 24 年)

あれだけあった砂浜が、今は、海に沈んだ。



1993/4/15 (平成 5 年)

富益工区

富益工区は、サンドリサイクル事業(川下の砂を、川上に運び、流す)に多額の投資が行われた。しかし、浸食の減災効果は薄く、汀線が大きく後退した。

国費が、ムダになっていないか。

海面から 60cm 下に、人口リーフ(石垣)5基が施された。浸食は止まっていない。

人口リーフの、事業監察が急がれる。



2001/11 (平成 13 年)



2012/12 (平成 24 年)